三真 真実を求め 真実を語り 真実を行う

令和7年度 妻中学校だより
2026年1月
1月号

妻中HP

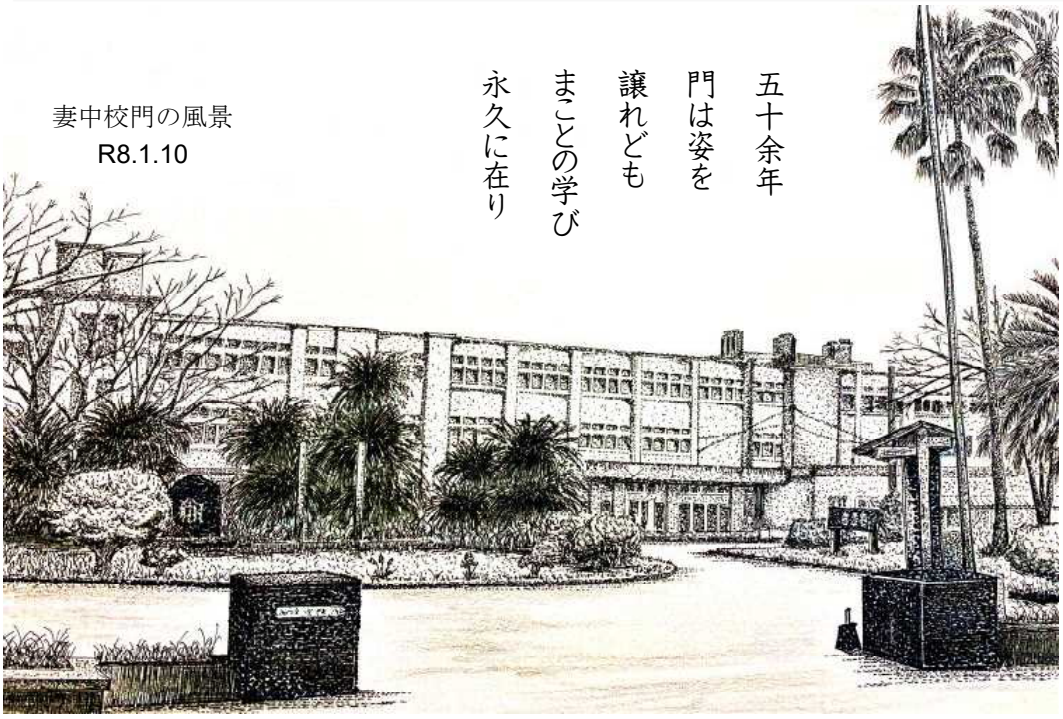
校長 伊東泰彦

この通信の著作権は妻中学校が有します。無断で文章・画像などの転載を禁じます。

妻中の校門がその役目を終えました…

1月に入り、妻中の閉校と西都中開校への準備がにわかに動きを増してきました。グランド整備はもちろん、いよいよ校門周辺も古いものを取り壊し、新しいものへ造り替える作業が始まっています。校門付近の装いもこれまでとは大きく変わります。昭和43年5月20日から半世紀以上にわたって妻中生を見守ってきた校門も、1月16日をもってその姿を消しました。

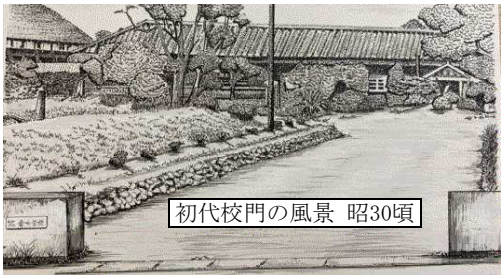
五十余年
門は姿を
譲れども
まことの学び
永久に在り



妻中校門の風景
R8.1.10

校門の解体R8.1.16

校門の校銘板



初代校門の風景 昭30頃

三真の轍（わだち）

校門の役割

開校から20年後の昭和43年5月に建立された思い出深い校門が、この1月に遂にその役目を終えて姿を消しました。この学校もいよいよ「**妻中ではなくなる**」という事実が一気に現実味を帯びた瞬間でした。解体作業を見ていると校門の役割について考えさせられました▼校門は単なる敷地の境界などではなく、様々な歴史的意義を持つ建造物だと思います。共同体のシンボル。戦後の学制改革期に開校した中学校は、民主主義や地域教育のシンボル的存在でしたが、特に校門には「地域が学校教育を支えていく」という決意の証であり地域コミュニティ団結の象徴でもありました。玉石を使った「洗い出し」という高度な左官技術や味わい深い校銘の揮毫（上写真）には、重厚感や格式が込められています▼世代を超えた記念碑的存在。校門は、門出である入学式から旅立ちの卒業式まで、雨の日も風の日も2万人弱の妻中生を見守ってきました。毎日のようにここをくぐり抜けた妻中生にとっても、この校門とそこから見る妻中の姿は、それぞれの世代を超えた共有の記憶になっているはずです▼学校の顔。いくつもの学校を経験してますが、妻中だけは、校舎を裏から（北側から）見る姿＝校門から見える風景こそが学校の顔に思えます。いよいよその顔が変わるとなると、どうしても今の姿を印象にとどめて皆様にお届けする必要があるように思え筆をとったところです。閉校に際し、このような節目の様子を皆様にお伝えするのも卒業生である私の役目のような気がしております。いよいよ閉校式も間近となってきました。（校長 伊東泰彦）

７９期生徒会スローガン看板を設置しました！

79期・妻中最後の生徒会スローガンを設置しました。12月号でも紹介しましたが一年生の児玉歩美さんがデザイン原画を描いてくれたものです。今回の看板は、ぜひ至近距離で見ていただきたく思います。羽の細かな重なりや桜の花、光の当たり具合など何ともいえない表現力を感じ取れます。中央に向かって左右から伸びる桜の花と鳥の翼は、まさに「共に未来を創ろう」という姿を表してくれています。

この上の段に西都中の校名を設置する予定です

グランドが見違えるようになりました！

走り幅跳び用の砂場

マウンドとホームベース

草一本生えてない
小石１つない
きれいで平らなグランド

閉校記念誌が完成！　直販します！

閉校に際して作成してきた『閉校記念誌・全68頁』がようやく完成しました。古い卒業アルバムを貸してくださった方や寄稿文を書いてくださった方々など多数の皆様方のご協力をいただき、読み応えのある思い出深い一冊ができあがりました。本当にありがとうございました。

少し在庫がありますので、**しばらくの間、妻中学校の事務室で直接販売いたします。**郵送代等がかかりませんので**１５００円**で販売しております。完売次第、販売終了とさせていただきますのでご了承ください。

完成した閉校記念誌

閉校記念ＤＶＤ付きです

１月３１日・２月１日にＡコープ入り口で販売してます。また市内の一部店舗でも店頭販売してもらう予定です。